

メッセージアウトライン

創世記29:31～30:24「苦闘の中での繁栄Ⅰ」

かつて父イサクとそして兄エサウをだましたヤコブはメソポタミアのおじラバンのもとへ逃れて、その地で羊飼いと生活する。かれはラバンの下の娘ラケルをめとるために七年間働いたが、ラバンは彼をだまして上の娘レアを妻として与えた。そしてヤコブはラケルを妻とするために、さらに七年間働かなければならなかった。

[29:31]「主はレアが嫌われているのを見て、彼女の胎を開かれたが、ラケルは不妊の女であった」

愛されない者が子を与えられ、愛された者が不妊である。アブラハムの妻サラ、イサクの妻リベカと同様にラケルもこの苦しみを担うこととなる。しかし、ここにも神のご計画がある。

[32-35]この箇所からは嫌われているレアが四人の子を産んだことが記されている。長男の名は「ルベン」これは「子を見よ」または「見てください息子です」の意。「主は私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するでしょう」(32) 彼女は子を産むことによって夫の心を得られると期待したのである。

「シメオン」これは「聞く(シャマ)」の派生語。「主は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に受けてくださった」(33) 「レビ」これは「結ぶ(ラバ)」の派生語。「今度こそ、夫は私に結びつくでしょう。私が彼に三人の子を産んだのだから」(34) 「彼女はさらに身ごもって男の子を産み、『今度は、私は主をほめたたえます』と言った。それゆえ、彼女はその子をユダと名づけた。その後、彼女は子を産まなくなった」(35) 「ユダ」 「ほめたたえる(ヤダ)」の派生語。 このように子どもたちが与えられるに従って、彼女の信仰も成長し、主をほめたたえる者となっていったようである。

[30:1]「ラケルは自分がヤコブに子を産んでいないのを見た。ラケルは姉に嫉妬し、ヤコブに言った。『私に子どもをください。でなければ、私は死にます。』」

次々に子どもを産む姉レアに嫉妬し、ラケルの忍耐も限度を超え、ヤコブに子どもをくださいと訴える。

[2] ヤコブは無理な要求をするラケルに怒るが、しかしこのヤコブのことばにはすべては神のあわれみにかかっていることへの新しい理解が見られる。

[3] ラケルはここでアブラハムの妻サラと同じ方法を取る。彼女の女奴隷ビルハによって子を得ようとするのである。「彼女が私の膝の上に子を産む」とは養子とする、ラケルの子とするという意味。

[4-6] 「ビルハは身ごもり、ヤコブに男の子を産んだ。そこでラケルは、『神は私をかばってください、私の声を聞き入れて、私に男の子を与えてくださった』と言った。それゆえ、彼女はその子をダンと名づけた」(5-6)

「ダン」これは「さばく(ディン)」の派生語。神は私をかばってください(正しくさばいて

くださる)の意。ヤコブはラケルの勧めがあったとはいえ、ラケルが子を産むということ
を信仰によって待ち望むよりも人間的に安易な方法を取ったのである。

[7-8]「ラケルの女奴隷ビルハは再び身ごもって、ヤコブに二番目の男の子を産んだ。そ
こでラケルは、『私は姉と死に物狂いの争いをして、ついに勝った』と言って、その子
をナフタリと名づけた」

「ナフタリ」これは「争う(パタル)」という語の派生語。ヤコブの心がレアに向かうのを
とどめることができたとの思いが込められている。

[9]「レアは自分が子を産まなくなったのを見て、彼女の女奴隷ジルパをヤコブに妻とし
て与えた」

彼女も妹と同じ手段を取ったのである。

[10-11]「レアの女奴隷ジルパはヤコブに男の子を産んだ。レアは『幸運が来た』と言っ
て、その子をガドと名づけた」

「ガド」幸運という意味。

[12-13]「レアの女奴隷ジルパはヤコブに二番目の男の子を産んだ。レアは、『なんと幸
せなことでしょう。女たちは私を幸せ者と言うでしょう』と言って、その子をアシェル
名づけた」

「アシェル」は「幸せと思う(アシャル)」の派生語。多くの子どもが与えられたことを人々
が祝福し、ほめたたえてくれるでしょうとの思いが込められている。

[14]「ルベン」レアの長男。「恋なすび」パレスチナの地によく見られるなす科の植物。
果実は小さいトマトほどで赤みを帯び、一般に性欲増進、受胎機能増進の効き目がある
と信じられていた。ラケルはレアにルベンが取ってきた恋なすびを求めた。ラケルは今
度は薬用植物に頼ろうとする。それもひそかに手に入れようとするのではなく公然とレ
アに求めた。ここには挑戦的な態度が見える。

[15] レアは挑発されて激しく怒る。「あなたは私の夫を取っても、まだ足りないのです
か。…」

レアが子を産まなくなってからヤコブは長い間彼女から遠ざかっていたようである。

「では……今夜、あの人にあなたと一緒に寝てもらいます」ここにはラケルのヤコブの
愛への自信と、恋なすびによってさらに多くの子を得ようとする思いの強さが見える。

[16]「……『あなたは私のところに来ることになっています。私は、息子の恋なすびで、
あなたをようやく手に入れたのですから。』その夜、ヤコブはレアと寝た」

まるで種馬のように妻や女奴隷の間をあちこちやり取りされているようなヤコブの姿
に家長としての威厳ある姿は見られない。

[17-18]「神はレアの願いを聞かれたので、彼女は身ごもって、ヤコブに五番目の男の子
を産んだ。そこでレアは、『私が女奴隷を夫に与えたので、神は私に報酬を下さった』
と言って、その子をイッサカルと名づけた」

この五番目の子は女奴隷によってではなく、レアが産んだ子である。ではこの18節の

ことばの意味は何か。それは、レアが本当は自分のところに来てほしいのに、あえて女奴隷ジルパを夫ヤコブに与えて、ガドとアシェルをもうけたという自己否定の行いのことを言っているのであり、そしてその報酬として神は彼女にイッサカルを与えてくださったというのである。「イッサカル」このことばは「報酬を与える(サカル)」の派生語。[19-20]「レアはまた身ごもって、ヤコブに六番目の男の子を産んだ。レアは言った。『神は私により賜物を下さった。今度こそ夫は私を^{たつと}尊ぶでしょう。彼に六人の子を産んだのですから』そしてその子をゼブルンと名づけた」

「ゼブルン」は「^{たつと}尊ぶでしょう」別訳「ともに住むでしょう(ザバル)」の派生語。

[21]「その後、レアは女の子を産み、その名をディナと名づけた」

初めての女の子の誕生である。この子の名前の意味の説明はない。しかし、ここで名があげられているのは後に登場する(34章)彼女をレアの子としてはっきり位置づけるための配慮であろう。

[22-24]「神はラケルを心に留められた。神は彼女の願いを聞き入れて、その胎を開かれた。彼女は身ごもって男の子を産み、『神は私の汚名を取り去ってくださった』と言った。彼女はその子をヨセフと名づけ、『主が男の子をもう一人、私に加えてくださるように』と言った」

長い間、子が与えられないことの苦しみと、姉との争いに過ごした日々の中でラケルは子が与えられることを切に祈り求めていた。そして神は彼女に心を留められた。これはそれまで忘れていたけれども、ようやく思い出したということではなく、神の定められていた時が来たということである。

「ヨセフ」は二つの語源がある。「取り去る(ヨーセーフ)」と「加える(ヤサフ)」である。これは「神は私の汚名を取り去ってくださった」すなわち、今まで不妊による汚名に苦しんでいたけれど、そこから解放されたことの喜びのことばであり、一人の子が与えられたことにより、さらに将来子が加えられることを期待する信仰のことばである。

ヤコブの十二人の男の子のうち十一人まではこのようにメソポタミアで生まれた。ヤコブは叔父ラバンの欺きによって彼の二人の娘レアとラケルとを妻にすることになった。兄エサウや父イサクを欺いてきた彼が今度は欺かれて二人の妻をめとることとなり、その地で十四年間羊飼いと生活することとなった。子を産む、あるいは産めないことによるそれぞれの女奴隷も巻き込んだレアとラケルの争いはヤコブに様々な苦しみや葛藤をもたらしたことであろう。しかし、そのような経過をたどりながらヤコブの一族は将来のイスラエル民族の基盤となっていくのである。

主なる神のヤコブへの約束は彼が苦しみの中にあっても変わることがない。→「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は地のちりのようになり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。見よ。わたしはあなたとともにいて、

あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない」創世記28：13~15

そして神はこのアブラハム、イサク、ヤコブの子孫イスラエル民族を通して、ご自分のひとり子イエス・キリストをこの世に遣わし、人間の罪の贖いを成し遂げてくださるのである。→ヨハネ3：16

神はいつもヤコブとともにいてくださる。そして同様に私たちにもともにいて導き、守り、祝福してくださるのである。どのような困難や苦しみの中を通らされる時でも、ともにいてくださる主に心から信頼しつつ信仰の歩みを進めることが大切である。→マタイ1：23, 28：18~20

<メソポタミアで生まれたヤコブの子どもたち>

レア (姉)	ジルパ (レアの女奴隷)	ラケル (妹)	ビルハ(ラケルの女奴隷)
ルベン	ガド	ヨセフ	ダン
シメオン	アシェル		ナフタリ
レビ			
ユダ			
イッサカル			
ゼブルン			
ディナ (娘)			